



多摩市立瓜生小学校

学校だより

平成29年度 第12号

平成30年 1月31日

今まで大切にしてきたものと新しいもの

校長 吉田 正行

今年は厳しい寒さが続いています。1月22日には大雪が降り、その後気温が上がらないため、校庭や校舎裏の雪がなかなか消えません。そんな中、児童の下校時に雪かきをしていると子供たちが通りました。その中の5年生の女子に何気なく「学校で楽しいのはどんな時ですか」と尋ねると、「できないことに挑戦している時が一番楽しい」という答えが返ってきました。みんなで協力して諦めずに挑戦している時が一番充実しているのだそうです。「課題を解決しようと友達と悩みながら、いろいろと意見を出し合って、試行錯誤している過程に楽しさを感じる」そんな瓜生の子供たちをととても頼もしく思いました。

さて、瓜生小学校では全校で和太鼓の学習に取り組んでいます。低学年から「音をあわせてたのしもう」「和太鼓にふれよう」「瓜生太鼓から日本文化の継承へ」「瓜生太鼓を地域に発信しよう！」と学年を追うごとに学習が積み重ねられていきます。最初はばちのもち方や構え方もわからないところから、一つずつ体験を通して学び、演奏の技術や質を高めていきます。叩き方やばちさばき、姿勢等互いに見て教え合います。

その際、大切にしているのが異学年とのかかわりです。教師が主導し、教え込むのではなく自分たちで「どうしたらリズムがとれるようになるか」「ばち回しをうまくやるコツは」「心を伝える演奏にするにはどうしたらよいか」等を考え、学年を超えて互いに伝え合う時間を大切にしているのです。

現在学校では、平成30年度の教育課程を編成しています。平成32年度から新学習指導要領が全面実施されます。道徳の教科化、外国語活動の時数増加、プログラミング教育の必修化等、新学習指導要領に基づいた教育課程を適正に実施することが求められています。和太鼓の学習のようにこれまで瓜生小学校で大切にしてきた学習のさらなる充実と、新しく求められている力を育てるのに必要な授業日数・時数を実質的に確保するためには、移行措置期間の来年度から夏季休業日の短縮も必要になると考えています。

3学期もあっという間に2月に入りました。卒業が近づいてきた6年生とは、2～3人ずつ校長室で会食をしながら6年間の思い出や趣味、将来の夢などを話しています。寒さが続き、インフルエンザでの学級閉鎖も出ていますので、うがいや手洗いを励行し、子供たちが元気でこの時期を乗り越えられるようにしたいと思います。



■青少協主催、どんど焼きのオープニングで力強い演奏をする5年生



■初めての和太鼓の演奏に真剣に取り組む1年生